

先日、11/28 に Zoom による遠隔会議形式で第 3 回日韓ラウンドテーブルが開催されましたので、以下に報告いたします。

第 3 回日韓ラウンドテーブル（国際交流委員会・韓国青少年政策研究院）

テーマ：「コロナ時代のキャリア教育、日韓の比較」

日時： 2020 年 11 月 28 日（土）14:00-16:30

場所： オンライン開催

主催： 韓国青少年政策研究院（NYPI）、日本キャリア教育学会（JSSCE）

共催： アジアキャリア発達学会（ARACD）、未来進路開発学会（ARACD Korea）

議長： 韓国青少年政策研究院 金鉉哲博士（Hyuncheol Kim）
早稲田大学 教授 三村隆男

通訳： 神奈川県小学校教諭 盧映林（Younglim Noh）

パネリスト：

（韓国）

- ・南城中學校 進路教師 金妍希（Kim, Younheui）
- ・京東高等學校 進路教師 鄭東淳（Jeong, Dongsun）
- ・城北進路體驗センター長 兪在善（Yu, Jaeseon）

（日本）

- ・熊本市教育委員会 指導主事 田中慎一郎
- ・埼玉県立浦和商业高校 第 3 学年主任 福本剛史
- ・株式会社キャリアリンク 代表 若江眞紀

報告：

2018 年から 3 回目を数える本会は、59 人の参加者（関係者含む）が集まりオンラインで開催された。まず韓国の 3 人のパネリストからコロナ禍の中学、高校、地域のキャリア支援センターにおける取組状況の報告があった。多くの活動が変更を余儀なくされた中、小学生が中学の様子を動画で見る機会を設けたり、オンラインによる進路相談が生徒に好評であったりとプラス面の発見の報告もあった。

次に日本の 3 事例の共有に移り、熊本市の産学連携を活かした中学校における学生主体

のキャリア教育、日本の高校における進路指導活動の状況と埼玉の商業高校におけるコロナ禍の取組、民間企業による中学生が企業人から様々な職業、職種を学ぶキャリア教育プログラムのオンライン化事例の紹介があった。

第2部のQ&Aに移り、パネリスト間、参加者間で活発な対話が繰り広げられた。対話からは、日韓の中学において、オンラインツールを使った発表も含むワークを生徒は前向きに受け止めていたという共通点が確認された。またオンラインツールの活用で、学生間の作業量の差が減ったり、不登校生の参加につながったりと、各実践を通して見つけたオンライン学習の利点も共有された。他には、日本側からは教育のオンライン化に教員を巻き込む工夫について、韓国側からはキャリア教育事業を民間企業が展開する日本の事例についての質問があった。また今後に向けての課題が取り上げられ、オンラインキャリア教育の評価方法、オンライン化で広がる教育格差問題に対するキャリア教育の対応について、各国の見解が共有された。

最後に三村議長から、子どもたちの未来を拓くキャリア教育に携わる者たちがコロナの脅威に立ち向かうにあたり、日韓が交流を通して共に歩いていくことの重要性が示され、討論会は幕を閉じた。初めてオンライン形式で行った日韓ラウンドテーブルは、パネリスト間のみならず、チャット機能を利用して参加者間でも活発な議論があり、これまで以上に手ごたえのある会となった。